

書名：淋しいのはアンタ
だけじゃない (1)

著者：吉本浩二

出版社：小学館

出版年月：2016年6月

ISBN：9784091876096



推薦者

森正

鳴門教育大学大学院教授
芸術系コース（音楽）

この本は聴覚の問題について書かれたコミックです。現在も「ビッグコミックスペリオール」に連載中で完結していません。本来ならここで取り上げるのにはふさわしくないものかとも悩みましたが、でも敢えてこの本についてここに書いてみたいと思います。

音楽コースに所属し、ピアノを弾いたり聴いたりするのが生活の中心になっている私も、実は右耳だけですが感音性難聴です。この病気と向き合ううちに、このコミックを読み始めました。聴覚の問題について書かれた専門書は数多くあるのかもしれませんが、漫画ということで、耳鳴りがどのように聞こえるのか、また耳鳴りを伴う動けなくなるような眩暈の様子や、耳が聞こえない状態で不安そうに町の中を歩く様子、吹き出しに書かれた、感音性難聴の耳にどのように会話が聞こえるのかなど、活字ではなく絵だからこそ表現することが可能になっていることも多く、おそらく一般の方々にも理解しやすいものだと思います。

視覚障害などと比べると、外見からはなかなか気づかれない聴覚の問題ですが、意外と我々の周りには、この問題に悩んでいる人は多いかもしれません。このコミックの中で、インタビューを受けた感音性難聴の方は次のように話しています。「難聴者や失聴者はみんな多分、気がひけてあんまり自分のことを訴えずに、ひっそりと暮らしている人も多いと思うんです。」そして私のように、それまで何の問題もなかった人間が、病気を原因にある日突然、聴覚障害になってしまうことも多いのです。現に私が耳の話をする、「実は自分も」という方が意外と多かったのには驚きました。皆さん、比較的症状が軽いようで気にされていないようでしたが。

実は身近なことである聴覚の問題について興味を持ったなら、是非このコミックを読んでみてほしいと思います。

そういえば、このコミックの後半で紹介されている、ゴーストライター事件で話題になった佐村河内守を取り上げたドキュメンタリー映画「FAKE」を、私も先日東京で見ました。この映画を見た人は、それぞれが様々な感想を持たれると思います。こちらも是非ご覧下さい。

そして最後に、このコミックのタイトルについて、どうかゆっくり考えてみてください。

